

臺灣總督府

昭和
十年

臺灣震災誌

臺灣總督

昭和十年
臺

江蘇工業學院圖書館
章

震
災誌

南天書局發行

一九三六年三月東京一版發行
一九九九年十一月台北一版發行

定價新台幣九六〇元正

昭和十年台灣震災誌

編者 台灣總督府

發行人 魏德文

出版者 南天書局有限公司

登記證字號：局版台業字一四三六號

發行所 南天書局有限公司

中華民國·台北市羅斯福路三段283巷14弄14號

電話(Tel)：(〇二)三六二一〇一九〇

電傳(Fax)：(〇二)三六二一三三八三

郵政劃撥：〇一〇八〇五三八號

印刷者 國順印刷有限公司

板橋市中正路216巷2弄13號

電話(Tel)：(〇二)二九六七—七三六

昭和
十年

臺灣震災誌

臺灣總督府

御沙汰書(寫)

臺灣總督府

今般管下震災ノ爲

被害不尠趣被

聞食御救恤ノ

思召ヲ以テ金拾萬圓

下賜候事

昭和十年四月二十四日

宮内省

序 文

昭和十年四月二十一日午前六時二分、新竹、臺中兩州の境界線たる大安溪中流域を震央として烈震起り、爲に兩州下に跨りて人命を失ひ、または負傷を受けたるもの一萬を超え、住家の潰滅、損壞を來せるもの數萬戸に及び、其他鐵道、橋梁、水道、道路、學校、官衙等の被害も亦甚大にして、南島平和の郷は、瞬時にして土塊の荒野と變じ、一朝にして肉身と死別して叫喚泣哭する者、或は瀕死の重傷に唸く者、或は恐怖に茫然自失する者等、慘憺たるその光景、誠に哀痛切なるものありき。

惟ふに、今回の地震の程度に於て、斯の如く多數の人命を失ひ、幾多の家屋を崩壊せしめたるは、たまたま本島農村家屋の大部分が地震に對して脆弱

なる土角造たりし爲にして、遺憾の極みなれども、因襲の然らしめたる處亦已むを得ざりしなり。殊に今日の文化を以てするも尙天變測り難く、地異豫め知るを得ず。地震の如きは最大の天災として甘受せざるを得ず。

然るに今回の災變に就き、畏くも上　皇室の御軫念を辱うしたるは誠に恐懼措く所を知らず、又内地各方面より、或は遠く海外より、翕然として寄せられたる溫かき同情に對しては、罹災民のみに限らず、臺灣在住民の齊しく感激に胸を滿さるゝと共に深く感謝を捧ぐるところなり。罹災地方の住民が災禍に怯まず、奮然として復興の道に一路邁進するを得たるは、實にわが同胞の溫かき鞭撻に負ふところ大なるものありと謂ふべし。

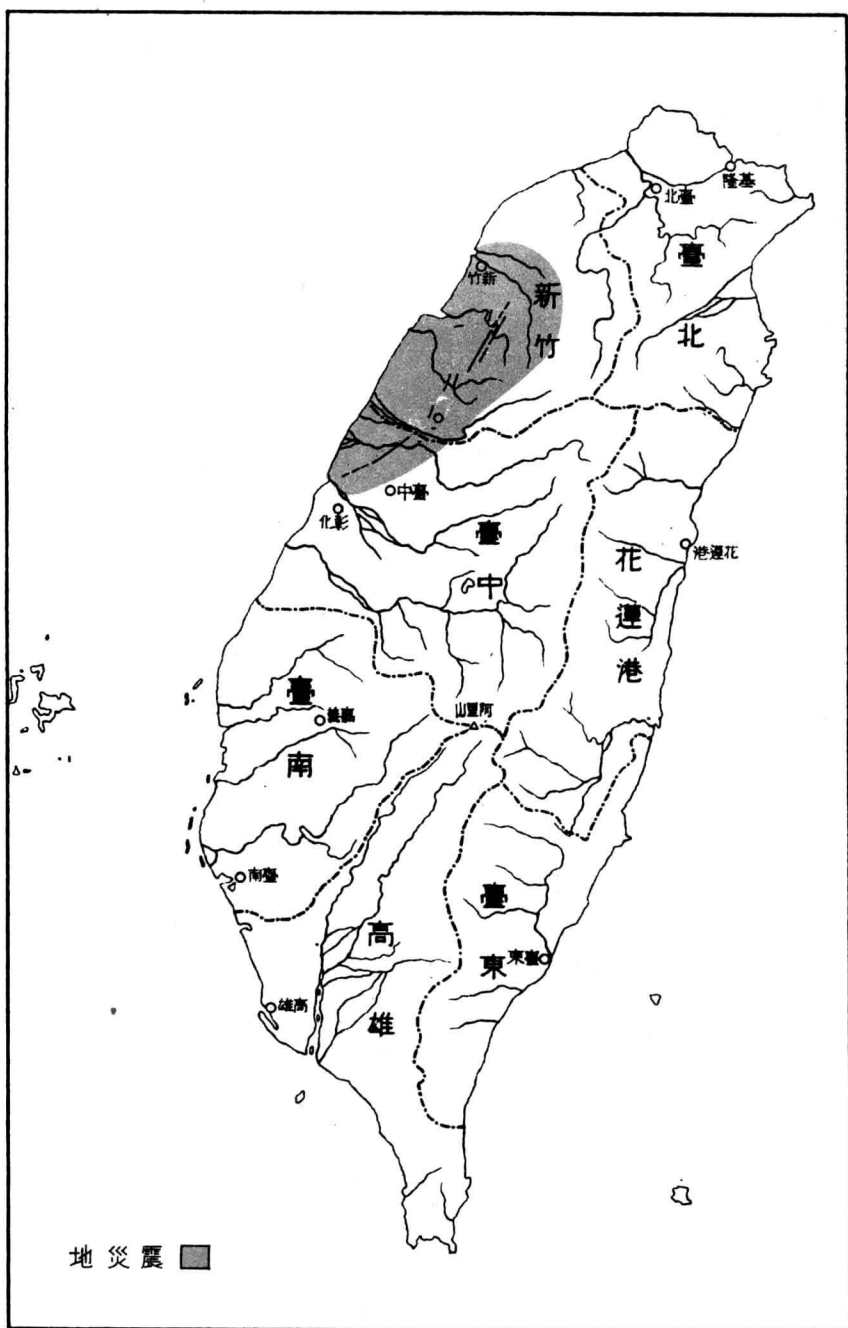
震後一年、茲に昭和十年臺灣震災誌と表題し、四月二十一日の烈震に因る被害、皇室の御仁慈、陸海軍を始め各公私團體の救療及び應援、總督府並びに新竹、臺中兩州當局の應急措置、救護及び復興の實狀を記し、且今回の地震

に對する各専門家の學術的研究を附して以て一卷とし、既往を追懷し將來に備ふるの資料となさんとす。

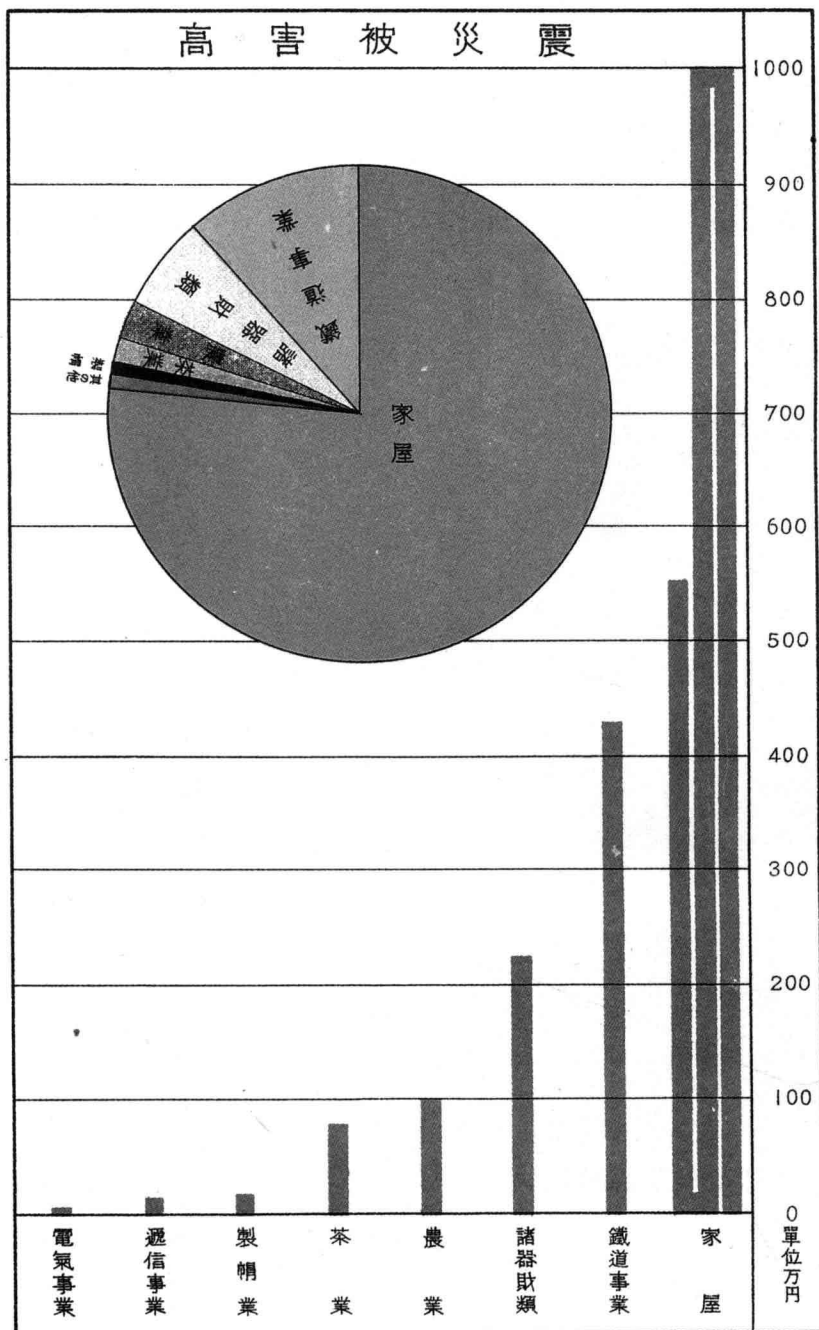
特に、廣大無邊なる 聖恩を銘記し、同胞の厚き同情を永久に記念せんとするは編述に當りて最も意を用ひたる所なり。

昭和十一年三月二十日

臺灣總督府



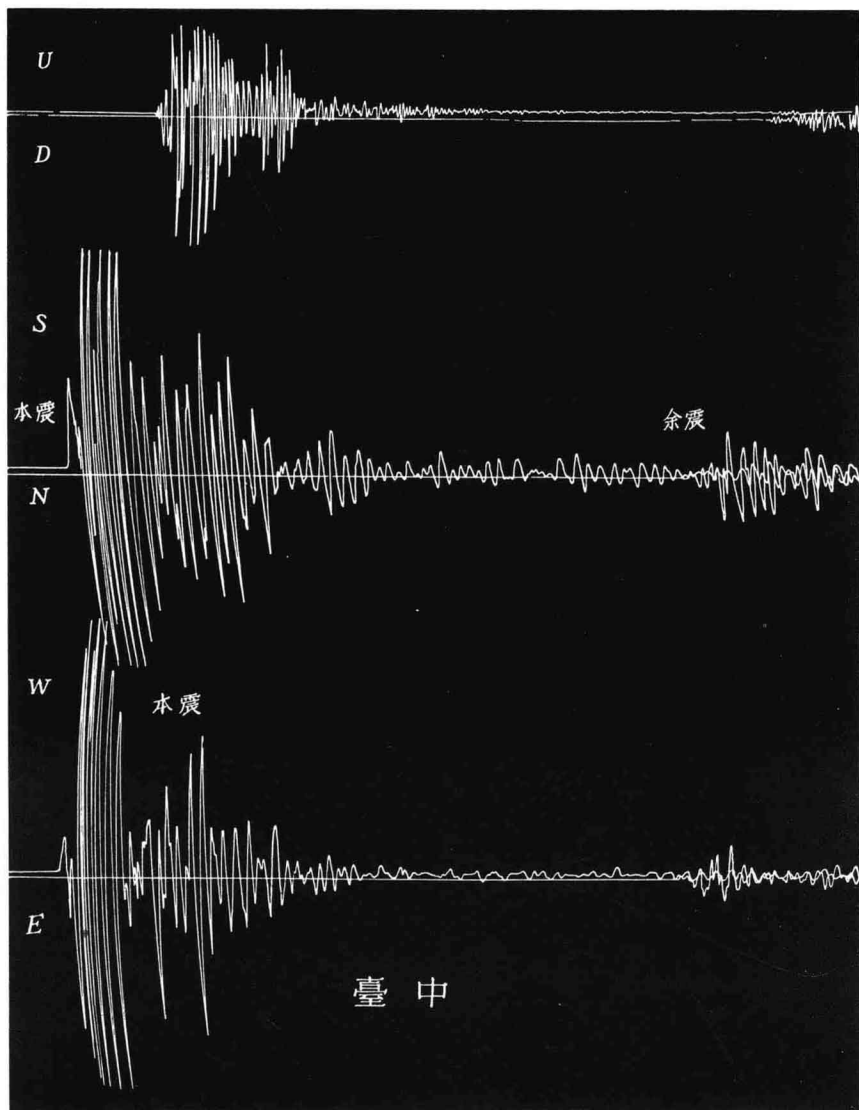
震 災 被 害 高





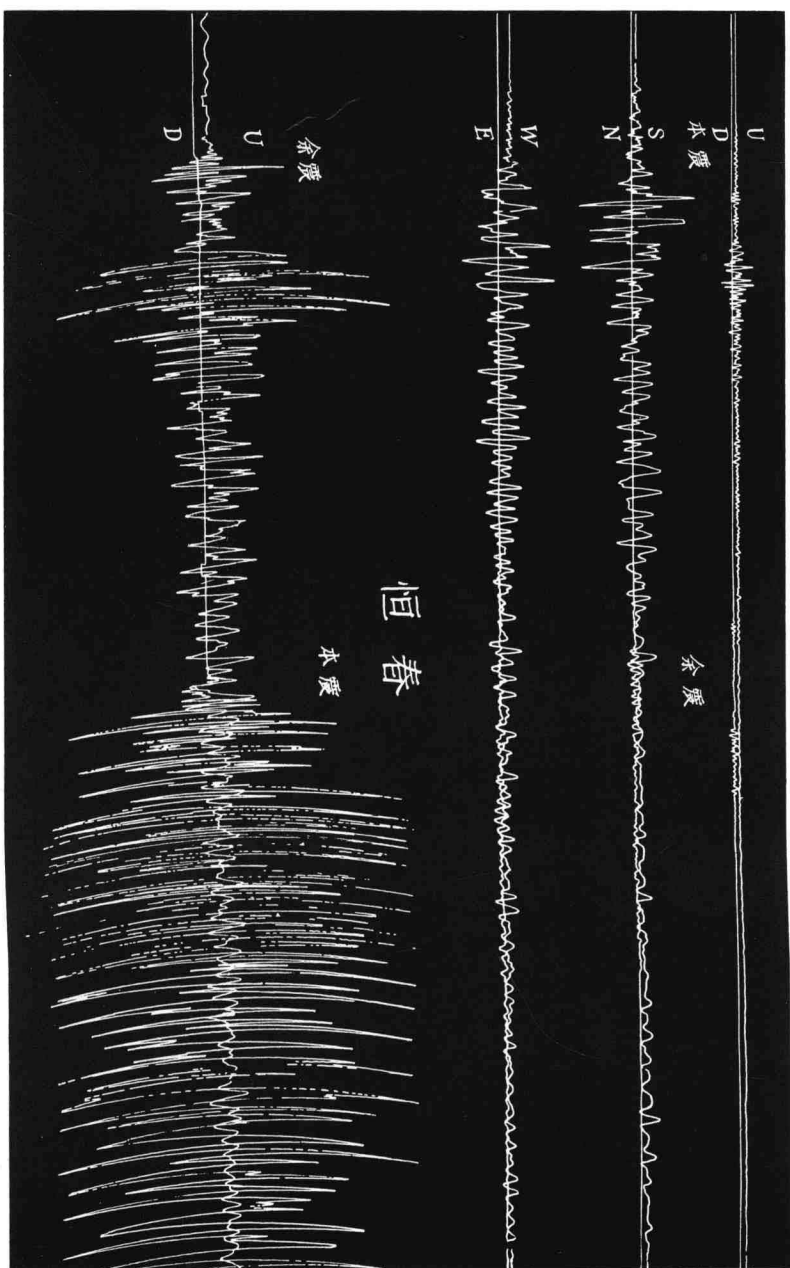
(室議會府督總於) 達傳を旨聖從侍江入

(1) 象記震烈州兩中臺・竹新



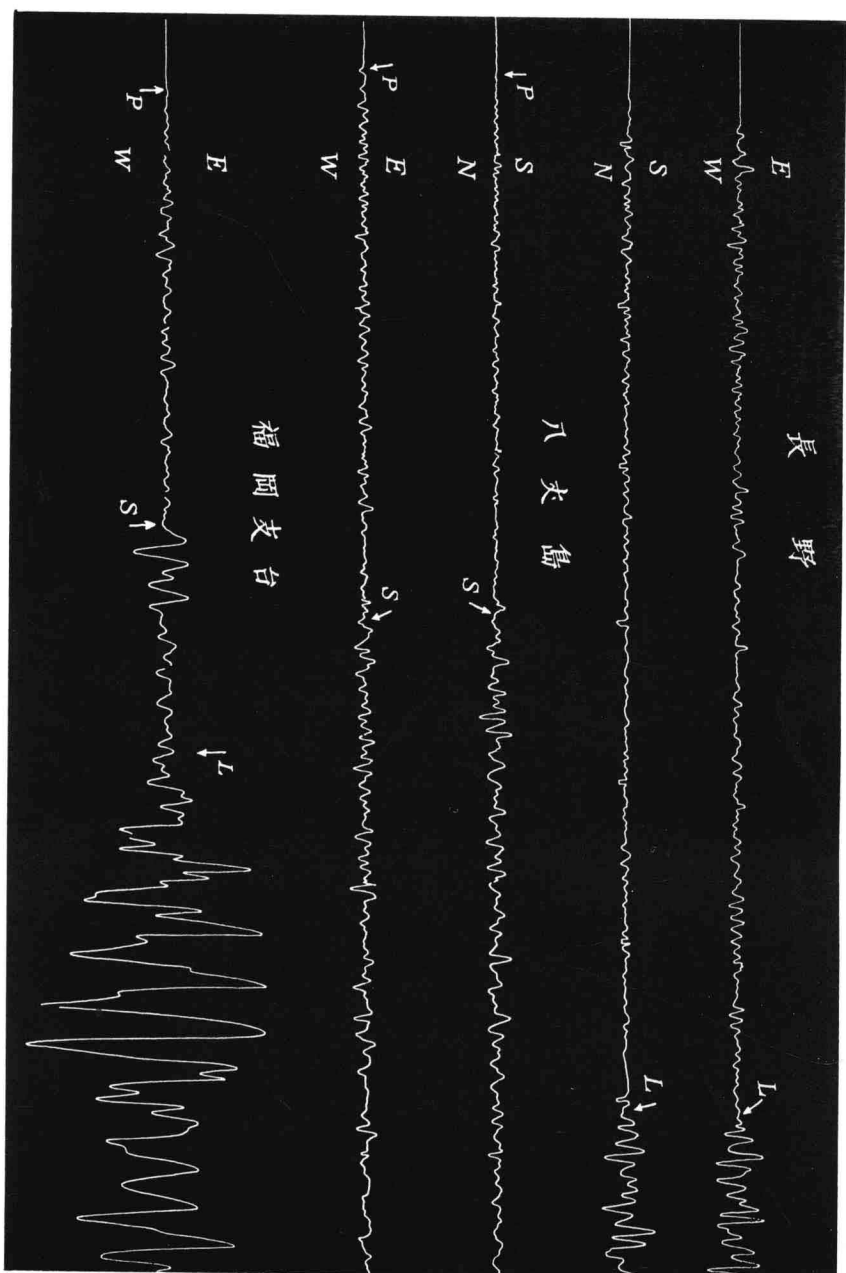
(象記計震強;中臺)

(2) 象記震烈州雨中臺・竹新



(象記計震地トルヘーイウ及計震強；春恒)

(3) 象記震烈州雨中臺・竹新



(象記計震地カンイマ; 臺支岡福・象記計震地トルヘーイウ; 島丈八, 野長)



神岡新庄子に於ける斷層の一部